

2024 年度 施設関係者評価

学校法人あおぞらキンダーガーデンの教育目標及び本年度の重点目標（参考）

◎教育目標・・・人間らしく生きる力の形成（体と心の主人公になる）

○子ども像 自分を大切に、仲間とともに成長する子ども（自己肯定感と他者を認める心）

周りの物に深い関心を寄せ、感動できる子ども

丈夫な体を持つ子ども

自分の発見や考えを豊かに表現できる子ども

1. 評価及び取り組み状況（ A：よくできた B：ふつう C：できなかった ）

（1）教育

評価項目	自己評価	取組状況
①幼児理解を深めるための視点の学習	A	自己学習力を上げ、日常の会議の中で実践を振り返りや論議・研修会参加の中で、子ども理解を深め、実践力が豊かになりました。
②乳幼児の発達を学んで幼児保育を充実する研究	A	日常の短い時間、総括、方針、法人全体学習会・保育問題研究会・和光鶴巻幼稚園公開保育研修・赤木和重（神戸大）の学習会・各種リモート研修などの場面で学びを深めてきました。その中で「今」を充実する「楽しかった」経験が、「自己肯定感の感性的土台を創る」事を改めて学び「あそび」保育に生かしていきたいと思っています。
③保育環境研究	A	学習・保育実践の中で「環境」の大切さを深め、室内外・園庭の環境整備を整えるなどし、環境充実を図ってきました。
④具体的な保育内容を考える	A	職員会議、総括、方針会議、給食会議、園内学習会の学びは、保育の多様な視点、保育内容のあり方を深めることができました。
⑤教育課程を見直す	A	毎月の実践検討会で見いだされたことを教育課程に照らし合わせ、見直しを行い、日常保育と教育課程のつながりを学びました。
⑥保育の様子や子どもの様子を保護者に分かりやすく伝える	A	連絡帳（わが子の様子）そしてクラス・園だより（わが子や仲間の姿、保育の中で何を今大事にしているのか？等を掲載し、日常の子育ての手掛かりになるヒントになる様）発行しました。又、懇談会・個別面談を実施してきました。そして送迎時や行事・保護者会活動など直接的に関わる時間を大事にしてきました。その他、ホームページ・掲示板は随時更新しました。

(2) -1 運営

評価項目	自己評価	取組状況
①教職員体制の改善、向上	A	<ul style="list-style-type: none"> ・正規職員・パート職員・職種に関係なく“子どもの最善の利益”をもとめる教職員集団をめざして学習・運営をすすめています。 ・特定非営利活動法人なのはなの教職員研修・交流を行いました。 ・平島幼稚園と、園児、教職員の交流を行い、実践・研修を実施しました。 ・特定非営利活動法人なのはなの交流を行いました。
②保育環境の改善、向上	A	保育実践実現のための室内外、設備の補充や安全点検を進めてきました。園庭や室内の環境づくりを随時整えてきました。
③運営全体について	A	2024年11月29日に実施した静岡市の監査において、特に改善事項はありませんでした。

(2) -2 運営

評価項目	取組内容	自己評価
乳幼児理解の自己学習やスタッフとの論議を深めていますか	自己学習・ちょこっと記録会議・保育課題の論議を大事に進めています。	A
実践力アップの為の学びやスタッフとの論議を深めていますか	他者の保育を見る中での疑問や共感を論議、共有することを大事にしています。	A
保護者理解の学びやスタッフとの論議を深めていますか	具体的な事例を通じて論議する中での学びと親を取り巻く環境についての理解を深める事を大事にしています。	A
保幼小の連携を見通し、保育カリキュラムの確認・充実をしていますか	日常の保育課題を通じて「乳幼児期にとって何が大事か？」を確認し、年1回のカリキュラムの見直しと加筆修正を行っています。	A
法人の「子どもの最善の利益」を目指す保育や運営への考えや提案はありますか	常に「子どもの最善の利益」をもとめて保育実践を続けている中、保育や運営への提案は時間をおかず生かすようにしています。	A
保育の中に現れる課題は社会に繋がっています。関心や学びはありますか？	目の前の子どもや親の姿の中に社会に影響を受けていることも多く、真の子ども・親理解の為にマクロの視点から子ども・親の姿を捉えて、保育を進めています。	A

(2) -3 運営について

評価項目	取組内容	自己評価
スタッフの働く条件の改善、向上はしましたか	正規・非正規・職種に関係なく「子どもの最善の利益」を求める大人集団を創る努力をしています。	A
子どもの最善の利益を目指し、保育環境の改善、充実はしましたか	園内・室内環境の充実を行っています。	A

(3) -1 組織について

評価項目	取組内容	自己評価
自分の思いや考えを大事にして保育・運営などの論議の中で意見を伝えていますか？	1人1人が自分の疑問・質問を言葉にして一緒に保育を創る努力を行っています。	A
②職務内容が明確で、協働できる体制になっていますか	子どもの最善の利益を真ん中に協働出来る姿がある。	A
職員の配置は、適材・適所ですか	それぞれのフィールドで充実する努力をしています。	A
保育・運営が成立するための組織図・専門委員会・係りのそれぞれの内容が明確化していますか？	基本的に明確化し、それぞれの分野で努力をしている。	A
係や仕事の内容・分担・割り当ては合意を作って進め、その時間が保証されていますか	基本的に合意を作り進めているが、不都合なときは、話し合いを行い柔軟に進めている。	A
職員相互がそれぞれ全体的立場を理解し、協力や助言を惜しむことなく施設の運営に関わっていますか	基本的には、進められている。意見がある時は「子どもの最善の利益」を追求する視点で論議するようにしている。	A
打ち合わせ回数、時間、内容は適切か	周りの意見を聞きながら合意を創っている。	A

(3) -2 組織－保健・安全指導について

評価項目	内 容	自己評価
①避難訓練・交通安全指導を、計画に基づいて適切に実施していますか	基本的計画に基づき、適切に実施されている。	A

②健康・安全な生活に必要な習慣や態度は家庭との連携無くしては、出来ません。園は、家庭とのパートナーとしての関係は作られているか？	日常の対話・ノート・クラスだより・園だより・給食だより・事務だより・懇談会などを通じて子どもの最善の利益を守る関係作りを行っている。	A
③乳幼児の安全確保のため、家庭・地域社会・関係機関等と連携を図っていますか	家庭・地域・関連機関と情報の共有、連携づくりを日常から行っている。	A

(4) 組織－研究・研修について

評価項目	取組内容	自己評価
①研究主題は、保育目標の具現化につながるものですか	日常の実践に生かし、保育の充実に繋がっている。	A
②園内研修の計画・運営は適切ですか	計画的に1年（あるものは複数年度）を見通して行われている。	A
③研究の成果を日常の保育に生かし、乳幼児の育ちに反映させていますか	月1回「ちょこっと研究会」（実践検討会）の中で保育の日常に生かされていることが検証されている。	A
④研究実践により乳幼児理解が深まりを見せていますか	実践を研究会などで発表し学びを検証し、それを生かす循環がある。	A

(5) 情報について

評価項目	取組内容	自己評価
①乳幼児や保護者に関する個人情報 を適正に取り扱っていますか	運営の手引きを作成し、適正に行われている。	A
②公文書収受、発送、処理を適切に行っていますか	複数のスタッフで、確認し実施している。	A
③各表簿は、適切な時間・方法で作成・処理していますか	複数のスタッフで、確認し実施している。	A

(6) 施設・設備について

評価項目	取組内容	自己評価
①施設内外・設備の安全点検を計画的に行っていますか	毎日点検等行い、記録している。	A
②遊具・用具等を、活用しやすいように整理・保管していますか	毎日確認し、記録している。	A

③消防・防災・不審者・健康等に対応する周到な配慮を行っていますか	情報の収集、マニュアルを作り訓練を実施している。	A
④掲示板、掲示場所等を適切かつ効果的に活用していますか	毎月1回、ホームページや掲示板で、園の情報を発信している。	A

2, 本年度の重点目標の総合的な評価結果

A	<p>幼児理解には「理論的と実践的」理解があり、各種研究会と日常の記録、実践の融合が必要です。</p> <p>今年もおおぞらキンダーガーデンで見せる子どもたちの様々な姿をどう理解するのか？の視点で沢山の論議が行われました。その結果、教師の自己学習力・子ども理解が深まり実践が豊かに行われました。そして、忙しい中でも園内外の研究活動に参加し「理論と実践」の結びつきを深め「子どもの最善の利益」を求める保育の充実が図られたと考えています。</p>
---	---

3, 今後取り組むべき課題

<p>幼児期は、環境による保育と言われるように、豊かな保育を創り出すには、環境づくりが常に求められています。今後とも園外での環境を充実するとともに園内の環境づくりを充実していきたいと考えています。</p>
--